

実践事例⑮ 多摩市立聖ヶ丘中学校

1 取組・活動名

「東京都立多摩桜の丘学園とのボッチャを使った交流」

2 取組・活動のねらい

- 同じ学区内にある都立多摩桜の丘学園の様子を教員と生徒が理解する。
- 障害のある生徒との交流や理解を促進し、共生社会の実現を目指す。
- 東京2020大会、正式種目・ボッチャの活動を通じて、オリンピック・パラリンピックや障害者スポーツへの関心を高める。

3 教育課程上の位置付け

「総合的な学習の時間、道徳・6時間」

4 実施上の工夫

- ・ 校内の教職員研修の一貫として、都立多摩桜の丘学園を訪問し、特別支援学校の施設や教育活動や、特別な支援を要する生徒への具体的な支援の内容などを学んだ。
- ・ オリンピック・パラリンピック学習読本を活用し、ボッチャについての事前・事後学習を行った。
- ・ リオデジャネイロ2016パラリンピック競技大会に出場したパラリンピアンを招へいし、講演会を開催することで、障害者スポーツに対する生徒の理解を深めた。
- ・ ボッチャの活動交流会では、優勝カップを本校生徒が製作し、表彰状を都立多摩桜の丘学園の生徒が制作するなど、生徒中心の交流会になるよう工夫した。

5 本取組・活動の内容



「本校教職員による、都立多摩桜の丘学園での研修会の様子」

- ・ 特別支援学校の施設の概要が理解できただけでなく、本校の教職員が、障害のある生徒の特性に対する配慮すべき事項などについて理解を深めることができた。



「当日のボッチャによる交流の様子」

- ・ 本校の生徒と都立多摩桜の丘学園の生徒がチームを組んで、ボッチャを行った。
- ・ 同じチームとなった生徒同士は、始めに自己紹介を行ってからゲームに臨んだことで、親近感をもって活動を行うことができた。



「表彰式後の記念撮影の様子」

- ・ 本校生徒が制作した優勝カップと都立多摩桜の丘学園の生徒が制作した表彰状を掲げている。
- ・ 最初はお互いに緊張した様子だったが、ボッチャの交流を通じて、次第に打ちとけた。

6 成果

- ・ 特別支援学校の生徒と接することで、手をとったり、車いすを押ししたりするなど、生徒の温かい気持ちを引き出すことができた。
- ・ ボッチャという競技にふれることで、東京2020大会への関心を高めることができた。
- ・ 交流を通して、障害の有無に関わらず、「将来に対する夢や希望を持つ中学生であること」に気付くことができた。